

はじめに

今回、ASCO 2016 に PAL ASCO 2016 の参加の機会と奨学金を賜りましたこと心から感謝申し上げます。かけがえのない学びと経験ができました。

日本癌治療学会の PAL プログラムに 2014 年から参加させていただいております。毎回、新しいことを学び、患者会等で活躍されている方とお会いし、情報をいただき刺激を得ております。

近年、がん患者と就労の問題、支援に関することがメディア等でも取り上げられるようになりました。私は、事業主としてハローワークの担当者と話し、がん患者の就労支援を試みたことがあります。更に以前、大学・大学院で社会政策、労働問題と国際保健を研究していたことから自然と海外の研究、政策等にも関心を持つようになり、ASCO に参加し国際的な動き、最新の情報を得、それを国内にフィードバックしたいと思い応募しました。

渡航準備と宿泊について

参加決定後、PAL 早期申込期間中に申込をすると割引価格で参加できるというご案内を事務局と今年の参加者から教えて頂き、早期申込期間中に申込を完了しました。

しかし、既に成田-シカゴ直行便の格安往復航空券は 15 万円以上になっており、更に、ホテルはネットで検索しても旅行会社に問合わせても 1 泊 4 万円以上という案内だったため、宿泊先をどうするか悩むことになりました。

最近、民泊と言われていることから、私も初めて Airbnb を利用してみることにしました。会場から市バスで乗り換えなし約 10 分で到着できる場所にあるところに宿泊できました。市バスで移動していると ASCO の参加者ネームホルダーを身につけた方がバスに乗り込んできました。他にも近くで Airbnb を利用している方がいるようでした。しかし、申し込んだときと条件が違う、ネットが繋がらない等のトラブル対応があることもあるので旅慣れない方は、通常のホテルに滞在した方がいいと思います。

尚、ハイアットなどは 10 ヶ月先の予約であっても既に 1 泊 6~8 万円です。

また、シカゴではタクシーの他に Uber のアプリをダウンロードすることによりこのサービスを使うことも可能です。Uber を利用することによりタクシーよりも安く移動することもできます。Uber の配車手配をすると自分を迎えに来るドライバーが誰か、乗車賃がいくらになるかというが車到着前に届きます。支払い方法は、クレジットカード決済です。

日本出発前に県の疾病対策課がん対策班を訪問し、ご担当者の方から県内のがん対策、患者会活動について情報をいただきました。

シカゴ空港到着から学会会場まで

シカゴ到着後、そのまま空港からシャトルバスで学会会場である「マコーミック・プレイス」に向かいました。シカゴ空港のシャトル乗り場には、学会会場行きのシャトルバスの案内とチケット売り場がありました。ここで往復のシャトルバスの代金を支払い帰りもシャトルで空港に戻ることにしました。シャトルバス内には、Free Wifi が用意されており、シャトル乗車中から既に会場入りされている PAL 参加者の方と到着の連絡を取ることができました。マコーミック・プレイス行きの空港シャトルの乗客は皆、ASCO の参加者でした。参加経験者が数人おり、初対面同士でも早速、車内で ASCO の情報交換が始まりました。

全米屈指の巨大会議場である「マコーミック・プレイス」に行く途中、いくつかの主要ホテルにもシャトルバスは停車しました。そのため、会場に到着したのは空港を出て約 1 時間後でした。

会場到着後、荷物を会場内のクロークに預け、PAL ラウンジに向かいました。そこで、日本癌治療学会から PAL ASCO に派遣された 3 名の方と合流しました。

慣れない広い会場を歩き、会場の雰囲気把握していきました。会場内には、会場案内をしてくれるボランティアがいるので、会場がわからない時は気軽に声をかけて場所を確認することができました。



会議場内にタブレット等の充電が無料でできる場所がありました。

ASCO PAL ラウンジ

不安と期待を抱きながら、PAL ラウンジに初めて足を踏み入れた瞬間、受付の方に笑顔で迎えて頂き、不安は消え去り、ホッとしました。

更に、広いラウンジと資料コーナー、小腹がすいた時に助かるスナックとドリンクコーナーの充実さに驚きました。

PAL ラウンジでは、参加者向け BINGO を実施していました。これは、PAL 参加者に話しかけて BINGO の一覧表に記載されている該当するところに、その方のお名前を記入してもらうものです。

初参加の私にとって、日本から参加している 3 名以外面識がない方々でしたので、多くの参加者に話しかけるきっかけの一つとなりました。

参加者名を埋めてカードが BINGO になった方は、受付にそのカードを提出、後日事務局で抽選を行い、当選者は翌年の ASCO にご招待とのことでした。



PAL ラウンジの入り

□

ASCO ブース展示

製薬会社のブースだけでなく、患者支援団体のブースも数多くありました。アメリカにおける団体運営において、寄付文化があること、寄付金集め専門のスタッフが活躍していることも改めて実感しました。

また、日本と違い製薬会社のブースと患者支援団体のブースが同じフロアにあること、医療者でなくても製薬会社のブース周辺をあるけることが日本との違いでした。

ASCO プログラム

事前に、iPlanner の案内がメールで届きました。渡航前にタブレットに iPlanner のアプリをダウンロードし、シカゴ滞在中こちらのアプリでスケジュールやセッション等の各会場の確認をしました。

私は、もともと労働問題、社会政策に関心があることから乳がん、女性のキャリア形成、腫瘍学における心身の疲労の治療などのセッションに参加しました。

比較的小規模のセッションは着席した周辺の参加者と挨拶を交わしセッションが始まるまでお互いの専門や関心事項について話しました。

登壇者に質問がある人は、iPlanner を利用して質問を送っていました。



とてもリラックスした雰囲気セッション

会長主催レセプション

ASCO 会長主催レセプションにも参加しました。ASCO 会長主催レセプション会場は、学会会場から離れていましたが、大型バスのシャトルバスが無料で用意されて満席になると随時学会会場を出発し不自由なく移動することが出来ました。レセプション終了時には、会場から主要ホテルに向かうシャトルバスが用意されていました。

レセプション会場では、ライブ音楽の演奏、ビュッフェ形式の食事が用意されていました。着席自由だったため、私は既にテーブルで食事を始めようとしている方に話しかけて一緒に会話と食事を楽しみました。一人は、翌朝のセッションで発表する大学の教授でした。とても気さくに研究内容についてお話してくれました。また企業ブースに出展している企業のスタッフもとてもフレンドリーに同僚を紹介してくれました。



会長主催レセプション会場の入り

□

おわりに

数年前に、偶然海外のサバイバーの方や団体の方とお会いしたことがきっかけで、海外の患者支援、国内外の就労問題に関心を持つようになりました。

患者と医療者のコミュニケーションの取り方に関する問題に関して時々聞きます。今回、働き方も含め医療者もコミュニケーションについて悩み、燃え尽きているケースがあることがわかりました。また、今後サバイバーの就労について考えていく上でもサバイバー、医療者、雇用主、同僚、家族とのコミュニケーションが大切と考えています。これからも得た知識や人脈を活かし社会に貢献していきたいと思います。

アメリカだけでなく世界各国から集まった参加者と交流、意見交換、学ぶ機会をいただきましたこと心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



日本癌治療学会のブースにて